

2022 全国遭難対策担当者会議 参加報告

教育遭難対策委員長 伊東春正（かがりび山の会）

日時：2022年7月2日（土）13：00～3日（日）11：30

場所：エスポールみやぎ（宮城県仙台市）

参加：47名（スタッフ12名を含む）

全国から23都道府県連の代表が参加して開催されました。

会議会プログラムは以下のとおりです。

7月2日

最近の遭難事故統計

講義「山とコロナとがん検診」

事件事例報告

7月3日

UIAAハンドブック紹介

各地方連盟の状況報告

各プログラムのトピックを紹介します。

(1) 最近の遭難事故統計

① 警察庁発表の山岳遭難の概況

2019, 20年はコロナの影響で登山自粛のためか遭難事故は減少したが、2021年にはコロナ前の状況に戻っている。

② 労山の山岳遭難の概況

2019～21年の死亡行方不明事故は4～5件であったが、2022年は6月時点で5件発生している。

(2) 講義「山とコロナとがん検診」

大阪府連会員の医師より、会員数を増やしたいが、なかなか増えないため、会員数を減らさないため、病気にならない、なつてもすぐに見つけるという趣旨で本講義を行っている。コロナでがん患者が減っているが、がん検診が減り発見できていないだけである。

公共サービスのがん検診は積極的に受診すべき。

- ・胃がん検診は、バリウムより胃カメラ検査がよい
- ・鼻カメラより口カメラの方が口径が大きい分、精密である。
- ・肺がん検診では、X線写真より低線量CTの方が、小さなガンも発見できる。

(3) 事件事例報告

主として死亡事故が報告された。

① 宮崎県連 64歳男性

心臓病により通院中で3月初旬にカテーテル手術が予定され、医者からは登山は止められていたが、ニトロを持って登山をしており、2月27日に銚岳(ほこだけ)山頂付近で心

筋梗塞倒れ、死亡した。

②佐賀県連 71歳女性

3人パーティで1月16日～18日 山小屋泊で夏沢鉦泉小屋→硫黄岳→天狗岳の予定で入山するも、途中2時間以上の遅れにもかかわらず、強引に登頂をめざし、天狗岳山頂で道に迷いつエルトなしにビバークして女性が低体温症で死亡した。

無理なコースタイムと装備不足が原因である。

③兵庫県連 50歳男性

2月5日二人で大山北壁に挑み、別山頂上のナイフリッジでリーダーが滑落、稜線まで登り返すが8合目付近でリーダーが動けなくなりビバークする。強風でツエルトが飛ばされ、予備の一人用ツエルトをリーダに被せ、メンバ単独で6合目避難小屋まで行き救助要請する。翌朝、リーダが低体温症で死亡しているのを発見。

ラッセル歩行と滑落後の登り返しの体力消耗が直接原因である。

(4)UIAA（国際山岳連盟）の総合登山技術ハンドブック紹介

世界中の登山家の叢智を集めたハンドブックを、労山国際部長が翻訳し、日本で限定3000部を発行している。

すべての山行で考慮すべき項目が書かれているとのこと。。

(5)各地方連盟の状況報告

宮城県連では、会員全員（140名）にヒトココを配布し、最近はココヘリ入会を勧めている。ドローンによるココヘリ捜索訓練も行っている。

私からはココヘリ加入状況とココヘリ捜索隊の活動状況を確認した。

労山会員のココヘリ加入は2000名（加入率12%）、ココヘリ捜索隊員は108名であるが、まだ活動は行っていない、とのことである。

所感

2年に一度の会議である。

前はコロナ禍でオンライン開催のためか、あまり印象に残っていない。

やはりこの手の会議は対面で行い、双方向での意見交換が重要であろう。休憩時間での立ち話も刺激となる。

遭難事例の報告を聞くと、随分と無謀なことをする人がいるものだと憤りを感じた。リーダーの計画とその後の行動で、メンバーを危険にさらし、救助関係者に負担をかけ、煩わせることになる。

佐賀県連の事例では、計画時のコースタイム設定の重要性を再認識した。

自分の所属する会の過去の計画書と報告書の所要時間を対比して、無理な計画はなかったかをチェックしようと思う。

宮城県連のドローンによるココヘリ捜索訓練は、救助隊のあり方に関して一つの方向性を示していると思う。

以上